自由と責任のバランスを意識して

《中学生の部 金賞》

口田中学校一年 金光 千夏

私は、この作文を書く時、お父さんに言われたことを思い出しました。

「大人は自分で好きなことをして好きなものを食べて自由に過ごせる。でも、自分が間違っても誰も代わりに責任を取ってくれる人はいない。だから今は、大人になつて自由と責任のバランスをしっかりとるための練習として、学校に行つていくんだよ。」

子供のうちは、自分が悪いことをしても、親の責任で済むかもしれないけれど、大人になると、自分の行いに責任を持ち、間違つたら自分の責任になります。つまり、大人になればなるほど、発言や行動には十分気を付けなければなりません。さらに、大人は自分を自分で管理しなければならぬので、自由と責任のバランスが重要なんだと私は思います。

そのために私は、自分の発言や行動に責任を持ち、人と誠意をもって接していかうと思います。これらを今のうちに練習しておき、自由と責任のバランスのとれた大人になりたいです。

大人になるということ

《中学生の部 銀賞》

中広中学校三年 吉原 未来乃

大人になるということは自分の意見を持ち相手に伝えられること、相手の意見を聞き、それらを折り合わせてまとめていけるようになることだと思う。

私の小・中学校生活を振り返ると、自分の意見ばかり主張し、他人の意見を受け入れない子、他人の意見に頼りきりで自分の意見を言わない子が多かった。その中には自分の意見が通らないと怒ってしまい手をあげてしまう子もいた。

世界でおきている争い事は両者がすれ違い、耳をかさないことでおこっているケースが多いと感じる。解決の道は戦争に発展するような強行策ではなく思いを主張し、受け入れ、譲歩し合う話し合いの力が互いに必要である。

今、私たちができることは、自分の意見を自信をもって主張するために、たくさんの知識を身につけていくこと、相手の意見を知り受け入れるため、物事を多角的に見る力を養うことである。学校での生活や学習を大切にすることで少しずつ大人に近づいていきたい。

私になりたい大人

《中学生の部 銅賞》

楠那中学校一年 中元 瑠香

私にはとても大切な家族がいます。私の家族の中には姉が二人います。一人は、脳せいまひという病気です。話すこともできないし歩くこともできません。それでも私は姉に話しかけたり、お世話をしています。

昔、旅行に行つたときに、車いすで行動している姉をみんながジロジロとみてきました。姉の病気を知らない人から見ると、変な大きい赤ちゃんと思うと思います。私はそのみんなの視線がすこし苦手です。大切な姉が、みんなにどう思われているのかすごく不安になります。その日の夜に、お母さんに聞きました。

「もあがみんなにみられて嫌じゃないの？」
そしたらお母さんが、

「私の子どもを見られて何がいやなのよっ。むしろみんな私の子どもを見ろっ！て思う！」と言いました。その言葉を聞いて、私はお母さんみたいに周りの目を気にせず生きていこうと思いました。

私がこれから差別のなく平等な世界をつくれる大人になりたいです。

大人になるということ

《中学生の部 銅賞》

三入中学校三年 蝶野 珠実

私は、大人になるということは自分の大切な人やものを守れるようになることだと思います。私の周りには、カッコいい大人がたくさんいます。私たちの安全を守ってくださる地域の方、家族を守ってくれる両親、生徒を守り、導いてくださる先生方。私たちは、たくさん大人の大人に守られ生きています。私も、自分の大切な人を守れる素敵な大人になりたいと思います。

そのために、私は小さな思いやりから始めたいです。友達や家族を思いやり、自分の周りの人達を大切にしたいと思います。そうすることで自分の大切な人を守るということにつながっていくと思ったからです。守るということは簡単なことではありません。しかし、守りたい人を大切にすることで、その人を守る第一歩を踏み出せると思います。

私は、自分の大切な人を守る、カッコいい大人になるために、思いやる心を忘れず、人やものを大切にしていきたいと思います。そして、私たちの力で愛する日本の国を守っていききたいと思います。

大人になるのはいいこと？

《中学生の部 入選》

観音中学校一年 松井 柚月

「まだ純粋なままでいてほしい。」小さい時母に言われた言葉。その言葉を聞いて私は、“じゃあ大人になったら汚れちゃうのかな”と思った。

その事を思い出して私は母に聞いてみた。

「ねえ、純粋って何も知らないと純粋なの？ じゃあ知ったら汚れちゃうの？ 知ったら汚れるんならそもそも世界は汚れているの？」母は少し考えた後にこちらを見てこう言った。「そうだね、確かに世界も全部が綺麗なわけじゃないね。でも世界を知る事は良い事だと思うよ。だって何も知らなかったら家に帰ったらかぎをかけたように、って発想にもならないでしょ？」確かに、と私は母の言葉に納得する。

「世界を知るという事は自分の身を守る術を学ぶという事でもあるんだよ。まあ、それでも知ってほしくない事もあるんだけどね。」母は苦笑いをしながらそう言った。

私は、大人になるのは良い事じゃないのかと思ったけれど、とても大事な事だと母を見て分かった。私も早く大人になりたい。

私の未来の姿

《中学生の部 入選》

日浦中学校一年 滝川 さくら

私には、心に残っている言葉があります。それは小学生の時に出会った担任の先生の一言です。私が学校に行きたくても行けないことで悩んで、心身共にしんどかった時、こう言ってくれました。

「何歩下つても大丈夫。少しずつ進もう。」

私はこの一言で、すごく救われ、気持ちが悪くなりました。私の事を分かってくれようとしないう大人もたくさん周りには居たけれど、決してそのような大人ばかりではないと、その先生の存在で気付く事が出来ました。小学校を卒業し、中学生になつた今でもお手紙を送ってくれます。卒業しても私の事を思ってくれる優しさとその姿が本当にうれいす。私には将来の目標がありません。先生が私に教えてくれた様に、人が困っている時、しんどい時に自然と寄り添ってあげられる様な大人になりたいです。私自身が経験しているからこそ分かってあげられる事や思いやりを持って人に接してあげられる事など沢山出来ると思います。困っている人を助けたい。これが私の未来の姿です。

大人からもらった希望

《中学生の部 入選》

矢野中学校一年 生徒

大人になるということ。それは、新しい希望になること。私はそう思う。なぜなら私は、小学二年生の時、大人に大きな希望をもらったからだ。

私は将来、看護師になるのが夢だ。看護師になりたいと思う理由は、看護師さんから、大きな希望をもらったからだ。

私が小学二年生のころ、スキーで後ろからぶつかられて、複雑骨折をしてしまい、救急病院で最悪足を切らないと、と言われた。その時、私は絶望していた。行く病院が決まって、ドクターヘリに乗っている時、ずっと泣いている私に、看護師さんは、大丈夫。大丈夫だよとはげましてくれた。

あの時から、看護師さんは、私のあこがれで、私の夢だ。私にとって大人とは、私にあこがれと夢をくれた存在で、前に進むための希望だ。

私は、大人になるということは、新しい希望になることだと思う。私はいつか、私に夢をくれた看護師さんみたいになりたい。私にとって大人は、未来に進むための希望です。

大人になるということ

《中学生の部 入選》

祇園東中学校一年 生徒

私は、大人になるということとは選択しなければならないことが増えることだと思ふ。

小さい頃はよく、親に服を決めてもらったり、夏休みの宿題の計画を立ててもらったりした。でも今は、服も自分で決めているし、課題の取り組み方も自分で考えている。特に親の手をつないで歩くことは少なくなっている。一人で歩くというのは、どっちに行くかや、右によらなければならぬなど、気づかないうちにたくさん選択をしている。

大人になるとさらに、増えると思う。ご飯は何にするか考えたり、どんな職についてかを考えたり、子供のときの選択より重大な選択をしなければならぬこともあるかもしれない。

選択することは、未来を決めることであって、百発百中で正しい判断はできないが、そのステップをふまなければ、大人にはなれないと私は思う。あと五年後には、成人となる。立派な大人になるために、たくさん選択して失敗してをくり返して、ステップをふんで行きたい。

なりたい大人になるために

《中学生の部 入選》

城山中学校二年 村上 璃愛良

私は、物事を周囲から聞いた話だけで確信するのではなく、事実をもとに確信に変える周りに流されない大人になりたいです。

なぜなら、人に流されると、周囲の空気に流されて、自分の思いが言えず、事実でないことで、相手を傷つけてそのまま、自分の気持ちを無くしてしまうかもしれないからです。

私は、うわさや見た目で、勝手にその人の印象を決めつけたことがあります。悪い印象があつたけれど、それは違っていて、その人と深く関わったとき、優しい人だと気づきました。それと同時に、私の思い込みは、相手が知っていなくても、とても失礼なことだったということにも気づきました。その原因は、事実でないことに確信をもったことで、これは、相手を傷つけて、相手を追い込むことにつながる場合があるかもしれません。

だから、私は事実から確信をもって、相手のいい所を見つけられる周りに流されない大人になりたいです。

大人になるということ

《中学生の部 入選》

牛田中学校二年 守永 郁花

幼稚園児や小学校低学年ぐらいのとき、何か我慢したり人に譲ったりすると「大人だね」と言われた。当時は誇らしかったが、少し成長してから考えると、自由奔放なのが子供で、自由がなく我慢しないといけないのが大人なのだと思い、大人にはなりたくないと感じた。しかし、その考えは少し違うのではないかと今は思う。母に大人になるとは何かを訊いたら「自分の行動に責任が伴うようになる事」と返答された。私は、責任が伴われる事はその分行動が自由になり、選択肢が増える事と同義であると思う。もちろん大人になると親への依存状態から卒業して自立する必要があるが、自分の学びたいことを学び、したいことをすることもできる。よって、私は、ただその時の気持ちで気ままに過ごせるのが子供で、周囲に気を使いつつも、これまでの経験や知識でより広がった自由を持てるのが大人なのかなと思った。今は、大人の自由の方が楽しそうで、自分のしたい事や夢に堅実に取り組める大人になりたいと思った。

「強さ」から思えること

《中学生の部 入選》

楠那中学校二年 風呂本 実和

大人になるということ、それは「強さ」だと思います。力の強さも強くなると思いますが、私が思うのは心の強さです。小さな頃は嫌なことや、思い通りに行かないことがあれば、我慢せずに泣いたり物や人に当たったりした記憶が私にもありません。でも、成長するにつれて周りの状況や相手のことを考えて行動できるようになり、自分だけのことを考えないで、我慢をするようになることが増えました。人と関わっていく上で、我慢をすることはとても大切だと分かるようになりました。心が強くなると、人に優しくできます。我慢も優しさの一つだと思います。成長して色々なことを知って、経験して心が強くなると、相手を傷つけるために力を使うのではなく、役に立つためや、守るために自分の力を使いたいと思えます。大人になるということは、自分のことだけでなく、相手のことを大切だと思える「心の強さ」だと私は思います。

小さな大人

《中学生の部 入選》

高陽中学校二年 山下 心愛

「大人になりなさい」これは私が友達とケンカをしたときに先生に言われた言葉だ。そのとき私は大人になるという意味がよく分からなかった。今考えると先生は私の言動に対して幼稚だと言っていたのだと思う。

だから私の考える大人になるということは「広く正しい心をもつこと」だ。一つ一つの事に感情を左右されるのではなく広く正しい心をもつことで何事もたくさんの視点で考えることができるからだ。私は正しい判断のできる大人になりたい。大人になると何をすることも自由だ。自分で良いことなのか悪いことなのか判断できるように心は大人になる中でとても必要だと思う。だから私は大人になるといつか年齢は関係ないと思う。令和四年度から成人年齢が二十歳から十八歳になる。しかし正しい判断のできる広い心ももつ人は子供でも小さな大人なのだ。

これから私は大人に近づいていくが自分の心を大切にできるような人になりたい。

時間

《中学生の部 入選》

戸坂中学校二年 八木 奏

命ある時間は生きている時間です。必ず終わりを迎えます。そんな限りのある時間の使い方、これが子供と大人の違いであると思います。私達子供は、生きていくのに必要なお金、知識など、全て大人からもらい、学んでいます。つまり命の時間を、未来のために、ほとんどを自分自身に使っているということです。一方大人は、仕事をしている時点で、「誰かのため」に時間を使っています。いつか終わりを迎える命の時間を、人のために使っているのです。

私が思う、大人になるということは、生きている時間を人のために使えるようになることです。子供の時、たくさん大人のものをもらった恩返しのような、次は私達が子供たちに伝えられるような、そんな時間の使い方です。また、社会は一人ひとりの助け合い、支え合いから成り立っているものです。そこにはたくさん人の想いがあり、想い合いの社会だと思えます。想い合うために時間を使う、その「想い」をしつかりともった大人になりたいです。

大人とはなにか

《中学生の部 入選》

高取北中学校二年 松本 陸

自分が思う「大人」とは五つあります。

一つ目は問題が起きた時の解決策を考えられる人、二つ目は自分と違う人の考えをうけ入れる心の広さがある人、三つめは自分自身を受け入れ、自分を大切にすることが出来る人、四つ目は家族を守るために自分にできることを頑張る人、五つ目は、世の中の人のために、自分が少しでも役にたちたいと思える人です。この五つのことを満たしている人が大人だと思います。

では、そんな大人になるために、やるべきことは何が一番なのかを考えました。それは、人とコミュニケーションをとるです。人とコミュニケーションをとると、自分と違う人の考えを読み取る能力につながるからです。

ただ、だからと言って全部が全部うまくいくわけではありません。できないことは、できないなりに、どうすればいいのかを考えたり、必要な時に誰かにちゃんと相談したり柔軟な行動がとれる人を自分は、本当の大人だと思います。

自分で決める

《中学生の部 入選》

翠町中学校二年 池上 結実

私は、大人になるのが怖いと思ってしまうことがある。なぜなら、自分で決めなければならぬことが増え、その分責任も重くなるからだ。今の私は、それがとても怖い。

でも、親や先生など、身近にいる大人のことを考えてみると、そんなに毎日おびえて過ごしているようには見えないのである。特に母は、大変だ、と言っておきながら、やつぱり仕事のことは放っておけないらしく、なんだかんだで楽しそうに生活している。私は、なんだかそれが、いつも微笑ましく、そして羨ましい。

では、なぜ大変な仕事も楽しく頑張れるのかと、考えてみた。それはやはり、自分の好きなこと、得意なこと、やりたいことに近い職業に就けているからだと思う。それが将来の夢どおりだろうとなかろうと、自分で納得して就いた職だから、続けられる。そう思うと、自分で決められるというのも、大変だけど自由で良いことなのだと感じた。そして、自分の選択肢を広げるためにも、今は色々なことに一生懸命挑戦したいと思う。

涙や笑顔

《中学生の部 入選》

白木中学校三年 河野 美菜

私は、大人になるということは、当たり前なことだけど、色々なことを成長させていくことだと思います。成長するには、たくさんの方の困難を乗り越えたり、幸せを感じたりすることが大切だと思います。困難を乗り越えようとする時、辛い時は涙が出ます。でもその度に強くなり、大人になって、辛いことがあっても、耐えられるように準備されているのかなと思います。

幸せを感じるということは、他の人の力も必要になってきます。だから、その人たちに感謝の気持ちを忘れない大人になっていきたいです。幸せを感じ、笑顔になると、心も明るくなるような気がします。その方が、自分が一番輝いている瞬間だと思います。

私は、涙を流したくなくて、困難を乗り越えようとしないうちから、乗り越えようと努力する自分が、すごく好きです。そんな私は日々成長していると思います。今、成長しているのも、将来のためです。大人になってもこの考えや、笑顔や感謝を忘れず、生きていきたいです。

必要な我慢

《中学生の部 入選》

安西中学校三年 生徒

大人になるということは、自分で自分のことが制限できるようになることだと思ふ。そう思つた理由は二つある。

一つ目は、大人はできることが増えるからだ。運転の免許などもそうだが、好きなものを好きなだけ食べることが、好きなことだけをして過ごすことなど自分の好きを好きなだけできるようになる。ただ、そんな生活をしていたらいずれ不健康になつてしまう。そうならないために少し我慢をすることが必要になると思う。

二つ目は、大人は人との関わりが広がるからだ。自分がしてしまったことが家族だけではなく様々な人に影響を及ぼす。自分の考えだけを優先し周りが見えなくなつてしまつたら、あらゆる人に迷惑がかかり、信頼も失つてしまう。そうならないために自分を抑え、周りにも目を向けることが大切だと思ふ。

大人になるとある程度自由になる代わりに自分の責任が増える。私は自分のためになる制限を大切にし、人に信頼される大人を目指していきたい。

私の目標

《中学生の部 入選》

五月が丘中学校三年 川岡 夕莉

私は、「大人」とは制限から解除され、自分の好きなように生活していける世界だと思っています。しかし、自分の決めたことに対して責任を持って生きていかなければいけない厳しい世界であるとも思っています。

そんな厳しい世界で生きている人の中でも、お母さんは私の憧れの人です。お母さんは毎日、朝に一日の目標をたてています。例えば、その目標が仕事のことです。仕事場で終わらせれなかったら、持って帰って夜遅くまでしています。こんなに忙しい一日でも、私の話を聞いてくれたり、習い事の送迎を必ずしてくれます。そんな状況の中でもやると決めたことは絶対にする。そんな責任感をいつも持って生活しているお母さんはとてもカッコイイです。

一生懸命なお母さんを見ると、自分もがんばらないといけない、と刺激をもっています。お母さんのような人になれるように、責任を持って、自己管理できる人になります。

大人になるということ

《中学生の部 入選》

大州中学校三年 畑堀 侑里

私が思う大人とは、自分で自分の進む道、人生を選択し、誰かと触れ合いながら社会で生きていくことだ。

大人は、子供とは違ってずっと誰かに頼りっぱなしではなく、自分の力で生きていき、時には助け合い、協力して自分の世界を広げていくのだと思う。

私は、自立し、自分の行きたい道を選択しいろいろな個性を持つ人との関わり、認め合い、社会で生きていく上でのマナーを守りながら「大人」という自覚を持つ大人になりたい。大人になれば、これまで助けてくれていた家族など頼れる人は少なくなり心細い気持ちになることもあるかもしれない。でも、そんな時は一度立ち止まって、よく考え、どうしようもなかったら周りの人に助けを求めべきだと思う。それに、急に十八歳になっても大人になれるわけではないと思う。だから、大人にだんだんなっていくにはいろんな人と関わり合い、おたがいを認め、助け合っていくことで、人間というものは成長し、大人になっていくのだと感じた。

僕の将来

《中学生の部 入選》

落合中学校三年 福田 雷獅

僕は今十四才なのであと四年程で成人し、大人への仲間入りを果たします。

まず、僕の中で大人になるということは、働き自立するという事だと思います。働くということは社会に出て社会人になるということです。つまり社会にでてでも恥かしくないような人になり、人のために動くことのできるような人にならなければなりません。

そのために僕は小学生の時から、人の前に立つ努力をしています。例えば小学六年生では体育委員長、副クラブ長などをして、中学校では、野球部の部長、体育祭の応援団長をしています。部長をしてみても思った事は、多人数を一人でまとめることは難しいということです。言葉で言うだけでは聞いてくれないこともよくあったので、自分から行動してみんなを動かすことや、同い年の仲間にも協力してもらいみんなをまとめることが大事だと思いました。

高校生になっても様々な場面で人前に立ち人との接し方を学ぶことが大人への第一歩だと僕は思います。

大人になるためのヒント

《中学生の部 入選》

戸坂中学校三年 三浦 広子

「自分の行動に責任を持ちなさい。」
この作文を書くとき決めた時、一番に思い浮かんだ母の言葉だ。私はここに、大人になることへのヒントが隠れていると思う。

私は、何をするにも、自分で決めるということが苦手だった。いつも誰かのせいにして目の前のことから逃げてしまっていたのだ。しかし、そんな私を変えたのが、冒頭のあの母の言葉だった。一見、別に大したことのない言葉かもしれない。けれど、大人になれば今までのように、自分のことを支えてくれる親や先生の力ではなく、自分の力で生きていかなければならない。仕事をするにも、給料をもらって働いているのだから、もちろん、無責任なこととはできない。

私は、母の言葉・経験から、責任を持つことの大切さを知った。物理的に言えば、私たちが成人するのは十八歳だが、自分の言葉・行動に責任を持つことができた時、「大人」になることができるのではないだろうか。

“大人”になる覚悟

《中学生の部 入選》

牛田中学校三年 中野 愛実

「来年から、私も投票できるんよね。」
親戚が集まった時、高校生のいところが話していた。まなももうすぐだね、と言われて少し不安になった。両親はよく『選挙は自分の思いを反映するために大切なこと』だと言う。政治のことも分からない私みたいな子供が投票してもいいのだろうか。

私の考える大人とは、自分の意志を他人に伝えられる人だ。だからこそ政治に意志が反映される選挙は大人の象徴だと思う。自分はたった一票しか入れられないが、数が集まれば大きな力に変わる。投票する人は、その一票の重さを自覚しなければいけないと思う。

十八歳まで残り四年。この時間は大人になる準備期間だ。政治を知り国を知るための時間だ。選挙権が二十歳から十八歳に引き下げられたのは、若い人達にもっと政治に関心を持つてほしいという思いからだろう。私はこれから少しずつ政治について学んで、自分の意志を持った大人になるための準備をしていきたい。

さあ、あなたは“大人”になる覚悟がありますか。

大人になるという大変さと責任感

《中学生の部 入選》

牛田中学校三年 角田 咲

大人になるという事は自分がする言動に責任を持つことができるようになるという事だと思えます。

私には高卒で働いている兄がいます。ある日、兄がふと「大人にならないで学生に戻りたい」と言い何でだろうと疑問に思いました。私から見て兄はとても自由で働いた分お金が入ってくるから羨ましいなと思っていたけど兄は何事にも責任を持たないといけないし、会社に出勤していない休日も会社のイメージを下げないために自由に遊べないと言っていて大人になるって自分が思っているよりも簡単な事じゃないんだなと思いました。

大人は自由になることが増えるにつれて責任を持たないといけない事が増えます。今回令和四年度から成人年齢が二十歳から十八歳に引き下げられたのでこれまでも大人に近づきました。本当に今の自分が責任感のある大人になれるのかわからないし、とても不安です。なので、今のうちから「責任」から逃げることをないようにしておきたいなと思ったし、本当の意味で大人になりたいです。

初心忘るべからず

《中学生の部 入選》

古田中学校三年 北山 舞

世間一搬では、十八歳を超えた人は大人と呼ばれる。だが私は年齢の違いだけでは大人と子供には分類できないと思う。例えば、電車内で人の迷惑を考えずに大きな声で長時間話している人や、コロナ禍にもかかわらず電車内でマスクをせずに席を占領している人。そのような、人の気持ちを考えずに行動をしている人を見かけると、申し訳ないが私の方があの人より大人だな、と感じることがある。もちろん、自立して一人で生活をしているのは本当にすごいと思うし、その大変さを私はまだ知らないのですがそれについて何かを言える立場ではない。だがやはり、自力でお金を稼ぐことと周りに気を配って人の迷惑になるような事はしないこと、その両方ができている人こそが真の「大人」だと私は思う。

私は今まだ子供なので、世間の大人を子供の目線から見ることができている。だが、あと三年、大人と言われる、年になれば、私にも大人という気持ち芽生え傲慢な態度を取ろうとするかもしれないが、その時は子供目線の気持ちを思い出し自己流の大人を貫きたい。

自分の人生を自分の力で

《中学生の部 入選》

宇品中学校三年 石谷 友規

私にとって大人とは一人で生きていける人のことをいうと思う。責任を自分でおい、自分が稼いだお金で生活していく。自分の人生を自分の力で歩んでいる人だ。私は理想としていく大人がいる。母だ。自分だけの事を考えず家族の事を一番に考えてくれる人だ。いつも優しく時には厳しくと人としてのあり方を教えてくれた。人の意見を聞きつつも自分の意見を持っていて強くたくましい人だと私は思った。私は一人で生きていきたい訳ではない。自分の力で自分の人生を歩んでいきたいのだ。その中で大切な人が増えていく喜びや、苦しい日々を乗り越えての楽しい時間を感じられることが大人の醍醐味だと思っている。

私はまだまだ子どもだ。だから責任もとれないし稼ぐことすらできない。自分の人生を自分の力で生きていく大変さを何一つ知らない。けど私の母は毎日楽しそうに過ごしている。きつと苦労もたくさんあると思う。けど人生を楽しそうに歩んでる母は、私のお手本だ。私はそんな大人になるまでまだまだ遠い。

大人になるということ

《中学生の部 入選》

宇品中学校三年 西村 誌萌

私が思う大人になるということは、見た目だけではなくて心も成長することだと思ふ。

なぜなら、見た目だけが大人になったとしても中身が幼稚なままでは年を取るだけ取っているようなものだと思えるからだ。だが、心を成長させたり鍛えたりするには沢山の経験が必要だと思ふ。例えば、友達とけんかをした後、なぜ相手は怒っていたのか自分は何のような所が嫌だと感じたのか少し振り返るようになる。そして振り返るだけでなくこういう事をしたら嫌な思いさせるこういう事をされたら嫌な思いをするから、私はされてやられて嫌な事はしないようにしようと思う。向きに考え行動に移すことが大切だと思ふ。

しかし、行動に移すというのは簡単ではない。だからこそ、大人になって意識し始めるのではなく子供のうちから色々な沢山の経験を積んでいくのも一つの解決策だと考える。

見た目だけが変わっていくのではなく心も成長し冷静に判断したり自身の経験などを生かし相手を思つて行動できる事が大人になるということだと考える。

あなたの良さは？

《中学生の部 入選》

中広中学校三年 生徒

正直、私はまだ何処からが大人でどんな姿が大人と言えるのか分かりません。しかし以前母に苦手な子の愚痴を言ったとき、

「社会に出たら自分と価値観が合わない人がたくさんいるよ。苦手だからといって目を背けるのではなく、その人の良い所を見つけてられる人になりなさい。」
と言われたことがあります。その時から母の言葉を意識する事で私が苦手と想っていた子の良い所も見つけることが出来たという経験があります。この事から私は大人になるということは自分の視野を広げるといふ事ではないかと感じました。

これから先、人との繋がりが増えるにつれ人間関係で悩む事も一人では解決出来ない事も出てくると思います。目の前の事から逃げたくなるかもしれません。でも何が大切なのか自分で考え、目の前の問題に向き合える大人になりたいです。その為にはこれからも人の良い所を見つける事を続けたいと思います。